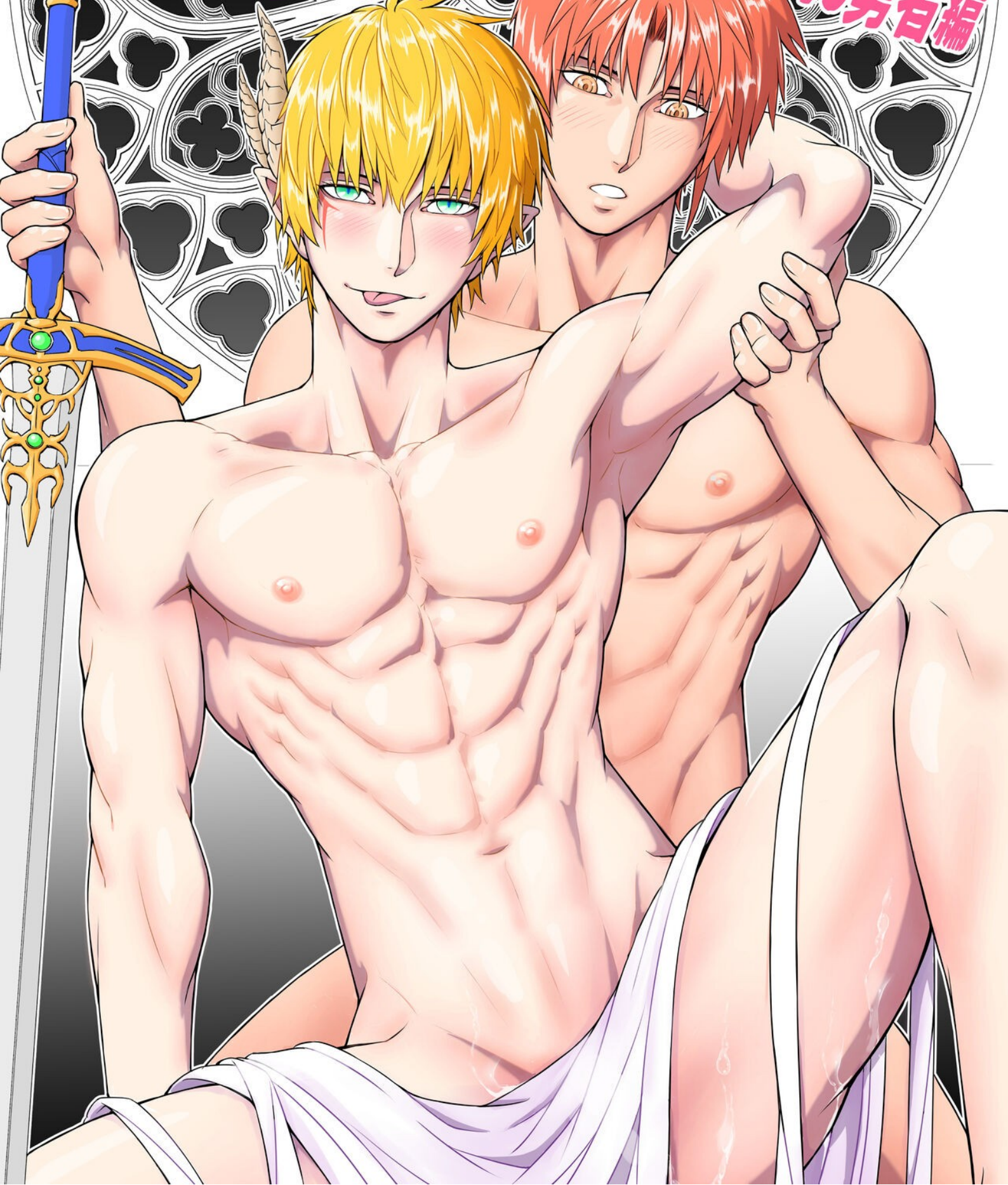


魔王様はエロで世界を 征服するそうです

VS勇者編



魔王城
最深部に

我が名は
冥竜ヴァオバロ！

魔王様に
歯向かう
愚者よ

我が灼熱に
果てるがいい！





ゴゴゴゴゴ

…強い

至高神より
授かった
天界の武具…



その加護が
無ければ…
やられていた

このヴァール大陸を
瞬く間に征服した…

片翼の魔王
アルディノ



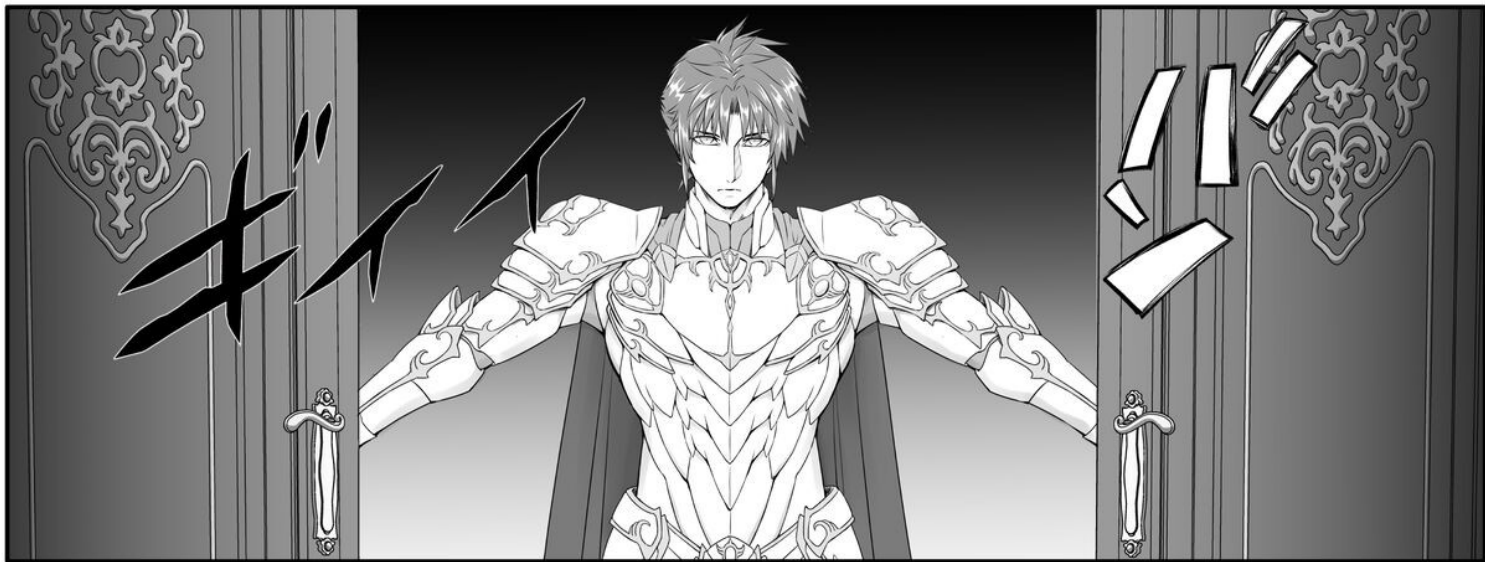
クソ…
限界が近い…



この命に
替えても…



装備の負荷に、
もう体が耐えれ
そうもねえ…



よくぞここまで
たどり着いた

勇者カイン
よ…



冥竜すら従える
その実力

見極めさせて
もらうぜ



なんと…

美しい…



随分と
待ちわびたぞ



あれが…
片翼の魔王



来るがいい

な…何を
考えているんだ
…俺は

私に
力を示せ

奴は
倒すべき敵

しかし何だ…
この感覚は



ええい!

迷うな!

ア

魔王!

覚悟!

楽しませて
くれよ

とあ...

ああ…

最高
だったよ…

カイン…

私をここまで
追い詰めるなんて

地上の者には
決して碎けぬ
天界の鎧…

だが残念で
あったな

ハア

ハッ

ハア

ハア

ハア

ハア

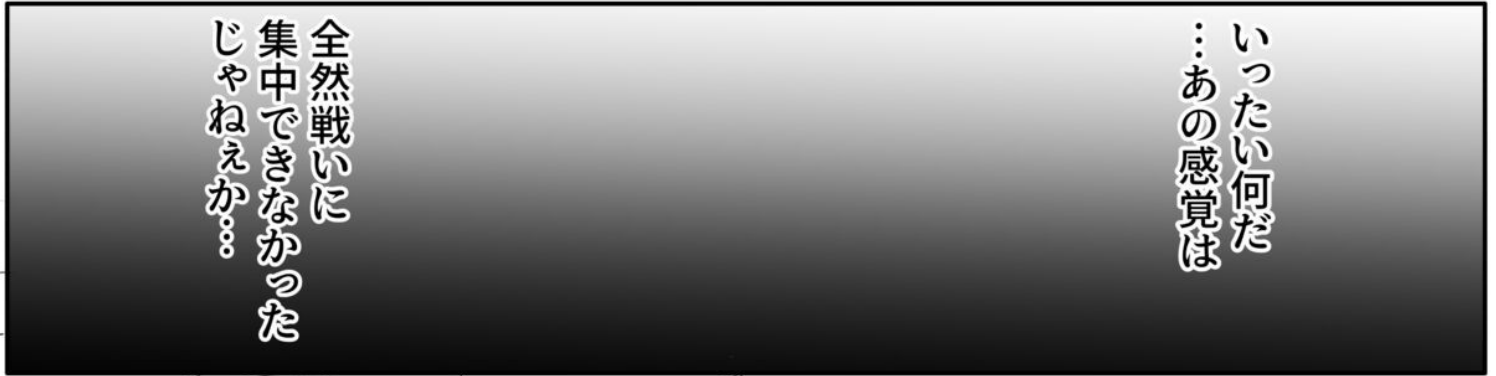




…ああ

かつて天界の
住人であった
私には通じぬ

…負けたのか



…ああ
いったい何だ
…あの感覚は

全然戦いに
集中できなかつた
じゃねえか…



俺は以前…

奴とどこかで…





ハハハハ



私の寝室
だよ…

ぬわあ！

ようやく
目覚めたか、
勇者よ…

ふっ

気分は
どうだ？

こう見えて私は
蘇生と回復が
一番得意なんだ

聞いてねえ！

何の真似だと
言っている！

何してんだ
お前!?

てか何故裸!?



何を驚いている？

私が勝ったのだから、お前は私のものだ

ざいっ



己の所有物を愛でるのは当然のこと…



ちよ…ちよ…ちよ…と待て…

何でこんなに…



何なんだよ、こいつ

エロいんだよお！



…あの日の
約束を忘れて
しまったのか？

最初に私を
求めたのは
お前ではないか

魔王たる私を
生んだのは…
勇者たるお前だ

な…

何を言って…



どうした？

ふっ



ふざけるな！

敵とそんなこと
できるかあ！



…まさか
お前…

どういふ…意味だよ…

抱き合えば…
いづれ思い出す
であろう…

ん…

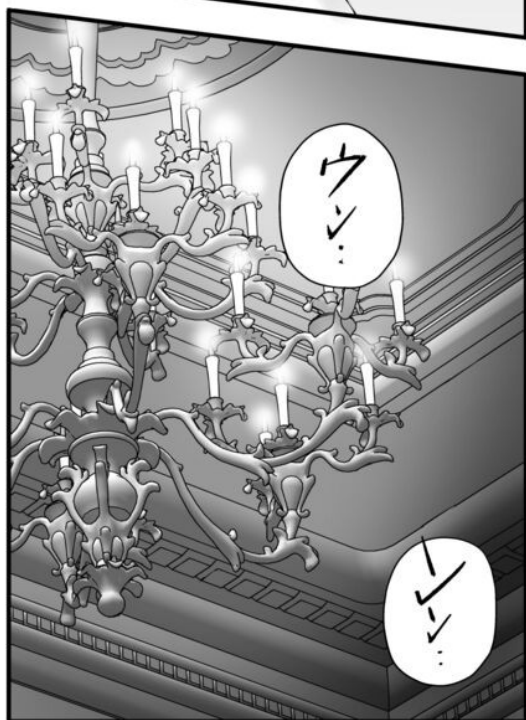


ウン…

フ…

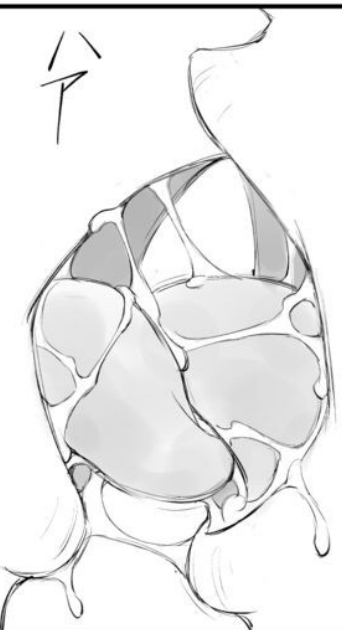
フ…

フ…

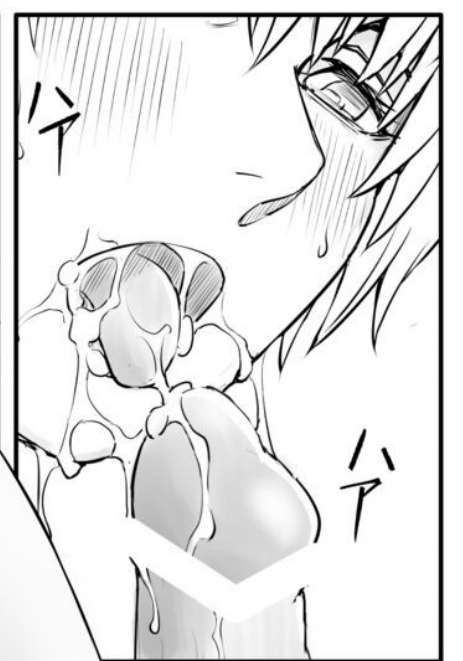


ねっとり…絡んで

…舌が…







ア...

やめろ

そんなところ

ア

さわんな

私はこの日を待ち焦がれていた...

クキョ

スキュ

クハ

お前が私のものとなり...

この世界を征服し支配する喜びを...

共に分かち合う日を...

ア

クキョ

ア

クキョ



何故だ…

どうして抵抗できない…



あああつ！ちくしよおおつ！



勇者が魔王に
さんざん弄られて…



こんなに…

感じるなんて…



いい感度だ…
本当に愛らしい

だが
悲しいぞ

まだ私を思い出さ
ないなんて…



ああ…

じれったいな…



少しばかり…
虐めてやろうか…



ゴゴゴ

思い出すことを
拒むのは…

ゴリユ

バゴン

それとも
罪の意識と
いうやつか？

勇者としての
プライドか…

どちらであれ！

バゴン
バキッ

ゴゴゴ

へし折ると
しよう！



楽しもうかあ

ああ...



実演して
やるぜ…

征服して支配
する喜びって
ものをなあ…

手加減とか
できねえが、

ニハイ

ま、壊れちゃったら
また治してやるよ

ハア

デカイの

ま…まで

そん…な

ハア

ハア

入ら…
ねえっ…て



オツホオ!
こいつあ想像
以上だぜえ!

たまんねええ!

ア!

ハク

ガ

ツホ

ツホ

ツホ

やめろ!
チンポを

ほら勇者様も
もっと気持ちよく
してやるよお!

や!やめっ

しこくなっ
て!

ウオ

ア

ツホ

ツホ

ア

ツホ

ああ、突くたび
チンポから汁が
溢れ出て、最高に
いやらしいぜえ…

ケツマンコも
キュンキュン締め
つけてくるしよお

壊れるどころか
どんどんとろけて
きやがる…





そんじゃあ…
もっとおもしろい
体位で遊ぼうか

ほら体
起こせ…

はあ
やあ…
やめっ…



さああ、
しっかり腰
動かせよお、

じゃねえと
チンポがズンズン
奥まで入って

腹あ突き破つち
まうぞおお!

アアアア

アアアア

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

ああー、
エロいオツパイ
してんなあ！

下から突く度、
固くなったり
柔らかく
なったりよお、

アウウウウ

イキそうになったら
プルプル震えてよお、
最高にかワイイぜえ！



へへ、下品な言葉で
弄られて、なおさら
感じてるみてだなあ

オオ
オウ

オウ
オウ

ああーあ、
神に選ばれし
勇者様が

アアッ

アア

ウウ

こおんなに
大股開いて
よがつてよお！

フッホッ

グモッ

みつともねえ
なよああ！

ジッ

ジッ



あああああ駄目だ！
言葉とチンポの
両方で責められてえ

頭が変になるう！







私の中を
暖めてくれ…

今度は
お前の番だ



支配して
みせよ…

私を征服し…

ま...
待てッ!

はあ

もう...
無理だつて!

はあ

アアア!

アアア!

アアア!

アアア!

カカッ

ちよッ

カカッ

カキョッ

カキョッ

やべえ!

またいくう...

ア

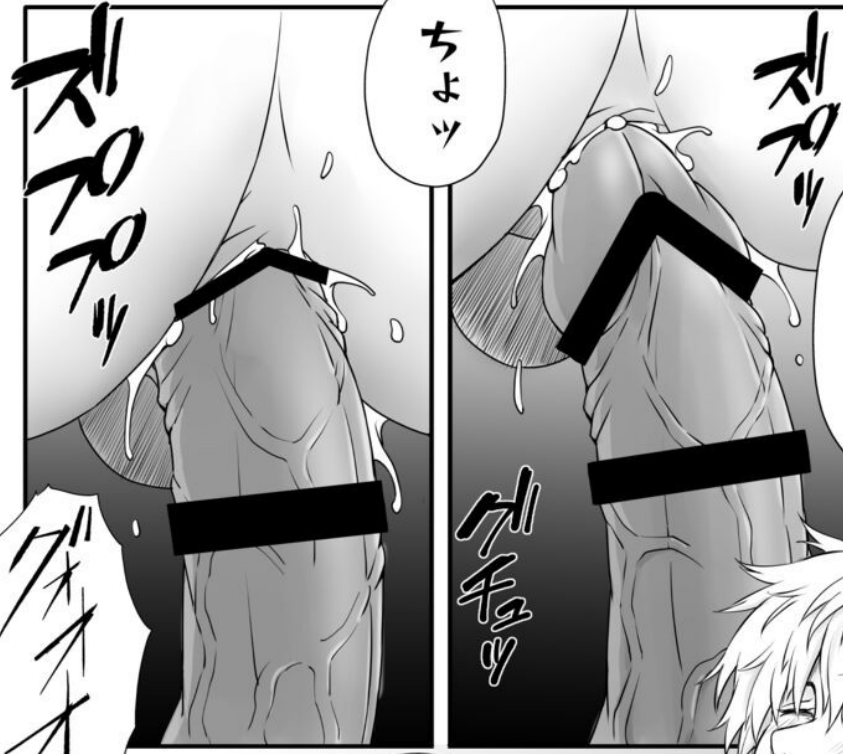
離れろお!

やめえろ!

アアア!

カキョッ

アア





この期に及んで
下らぬことを
考えているな…

お前の考えは
全てお見通しだ



このままではまずい…



何とか…

この状況を
打破せねば…



視線や筋肉の
微細な動き…

鼓動や
息づかい…

全てから
お前の思考が
伝わってくる

面白...

さあ...早く
何かやって
みせよ...

急がねば
お前の精気...

一滴残らず
吸い尽くして
しまおうぞ





もっと…
…もっとだ

…いっばい

欲しいい

お前のが

中に…
欲しい…

アアア

アアア

アアア

アアア



な…ぜだ、
お前のその姿は
天界の使徒
そのもの…

それが何故…
魔王に…

アアア

アアア



天界第一の位

熾天使レミリオン



かつての私は
天界第二の位を
持った熾天使！

…そうだ



なに…
ちよっとした
出来心だ…


私は、人間が持つ
愛欲というものに
興味が沸いた

そして
手始めに…

♡

♡

♡



私は彼を捕らえ
毒蛇の檻に幽閉し

凌辱の限りを
尽くした

ああ：
今思い出しても
全身が熱く疼く…

でもまだだ：
まだ足りない…

だから私は
愛欲で地上を
墮落させ…

この美しい星の
全てを手に入れる
と決めた

…たとえ魔に
落ちようとも



とんでもねえ奴…

俺が…
何とかしねえと…

魔王たる私を生んだのは…

勇者たるお前だ

くっ

進めば…何か思い出すのか？

じゃあ
やってやるよ！

フッ

お？

ガビッ





ちよっ

パン

待

これまで黙って
やられていた
訳じゃねえ…

アアア

ダメツキ

アアア

お前のどこが
弱いか、ずっと
探っていたんだ！



ハア

パ

ビ

ドク

ドク

ビ



ハ

パ

パ

はげし
ミ



ハ

パ

ダメ
ツキ



凄く…
イイとこ…ッ

ハア つまんなに…
激しくッ
…突いたら

ハア

ドチュ

ドチュ

ドチュ

ドチュ

ハア

ハア

屈服させて

黙らせりゃ
いいんだろ…

要は…

おかつ…
おかしく…
なる、から…

ハア



グア

グイ

ハア

もつと…ッ
や…やナレク
し…ろ…

ハア

ドチュ

ドチュ

ドチュ



のってやるよ！

お前の
やり方にな！

ああ…
これか…



これが征服し支配する感覚…

ああ…悪くねえ

二つがとろけて
一つになっちゃまいそうなの…



いやっ…飲まれるな！

俺はこいつら魔物とは違う！！

忘れるな、俺は勇者だ…
守るべきものの為に…



。。。守る？

。。。俺は。。。

。。。何を守る為に勇者になった？





ああ……
思い出した

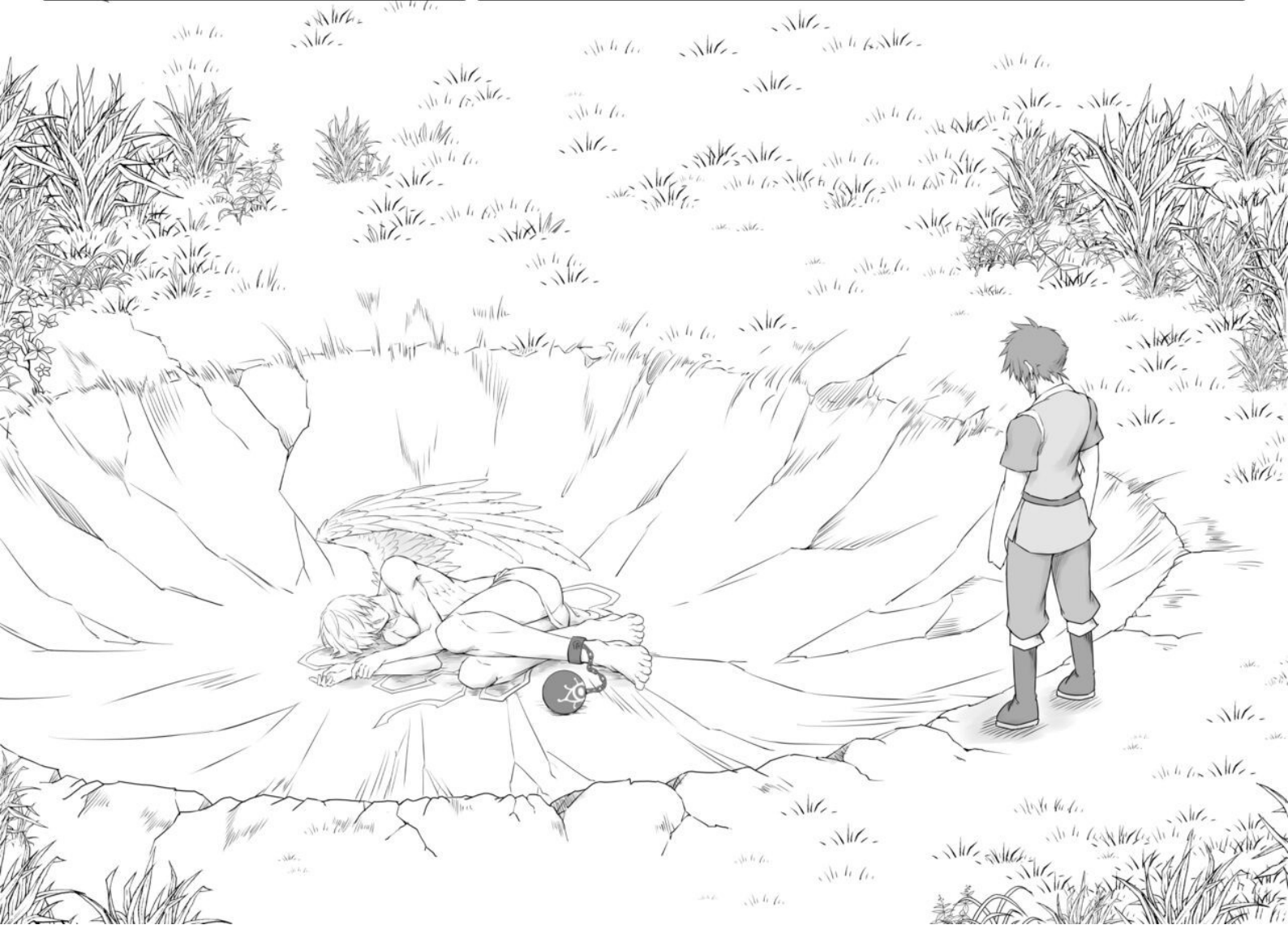
遠い日の……約束

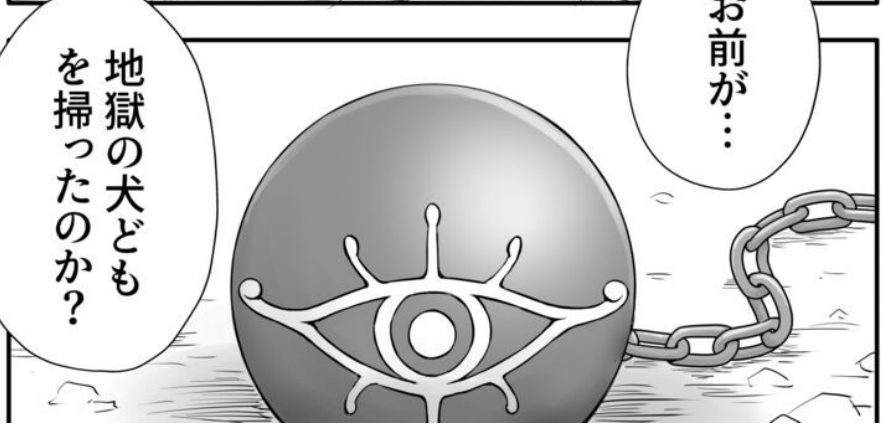


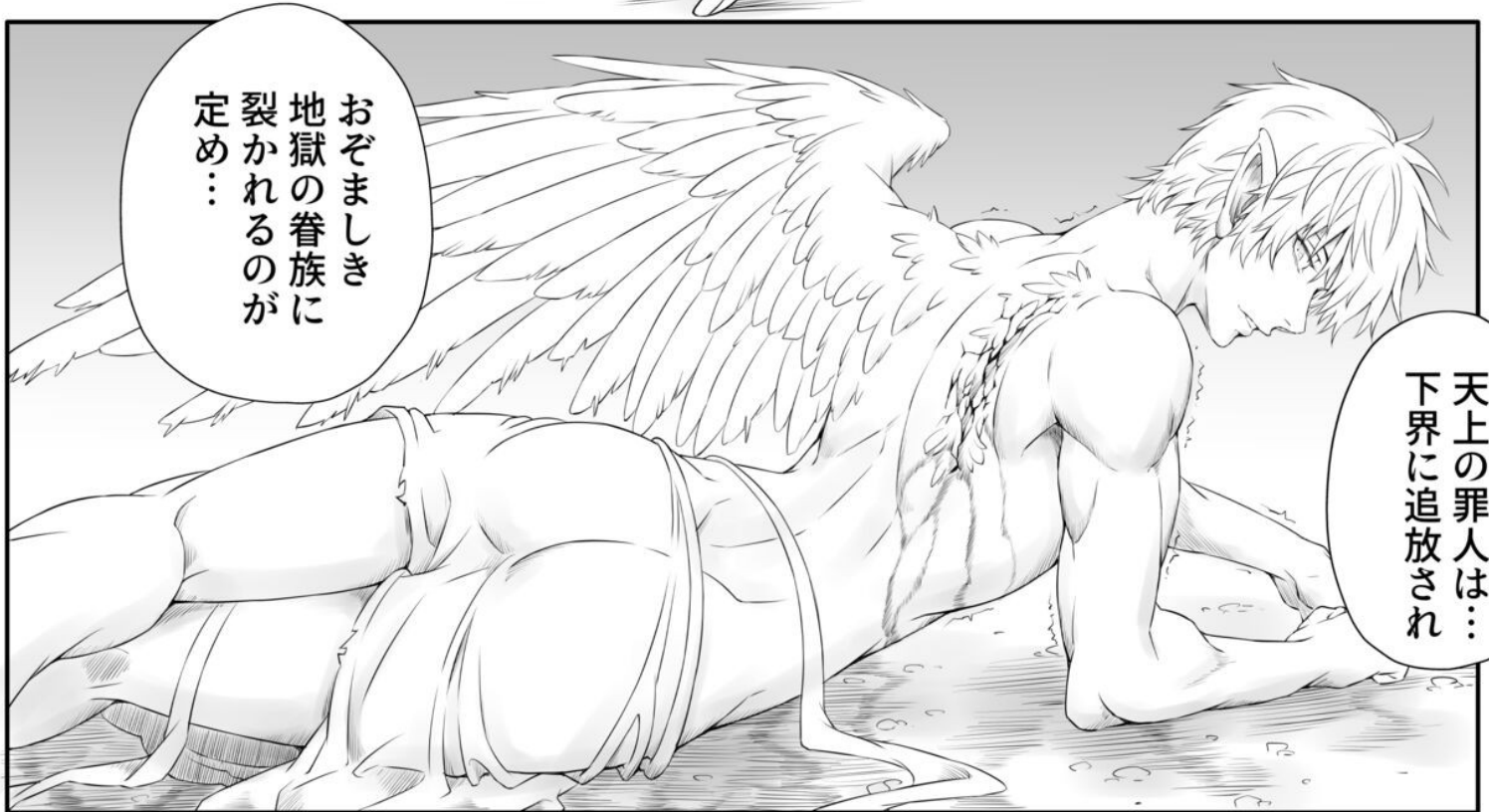
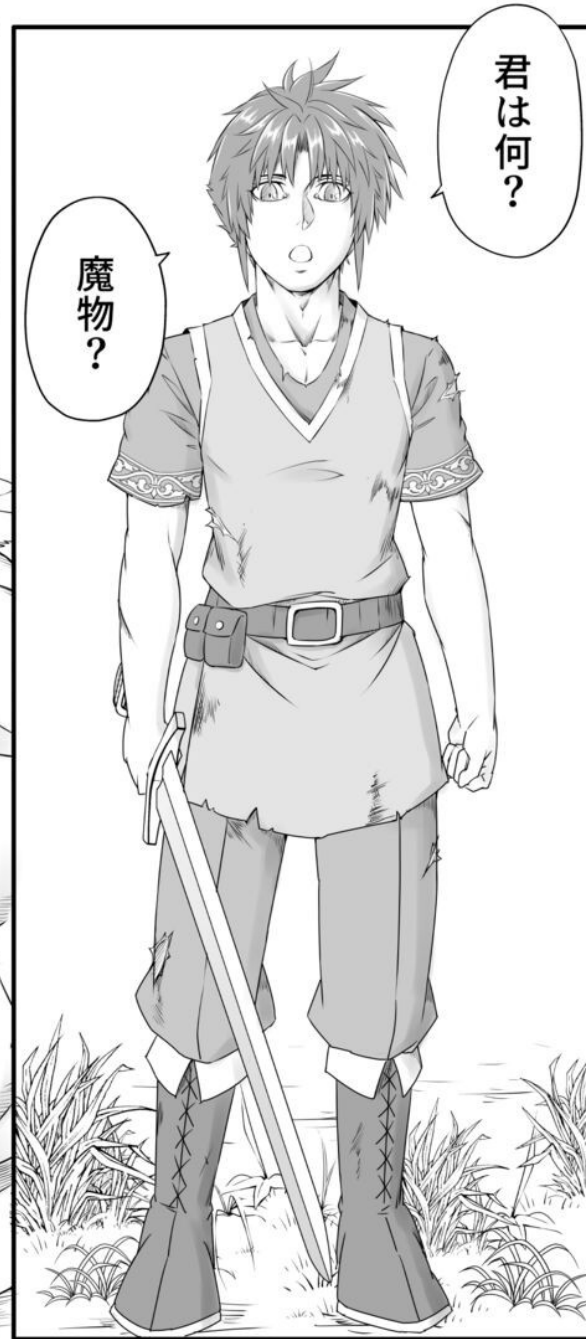
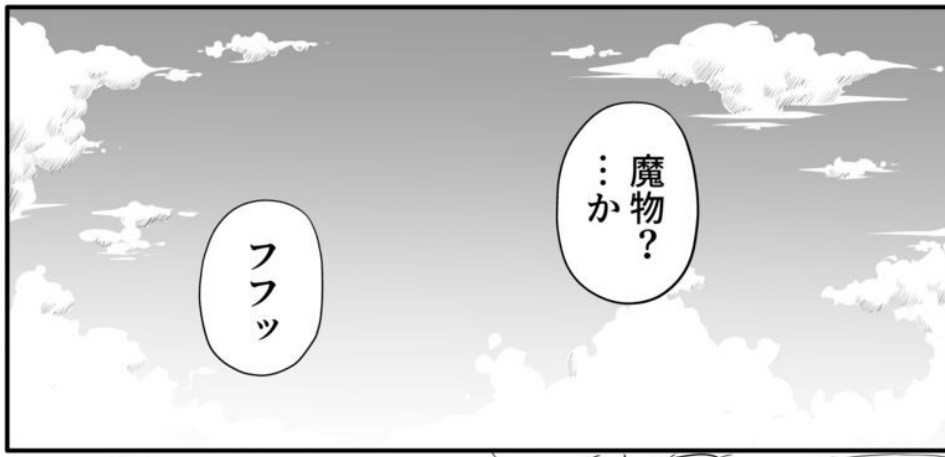
あの日……

ベルミラ平原に
異様な魔力が
立ち込め
無数の
ヘルハウンドが
集まっていた









だがお前が
現れたのは…



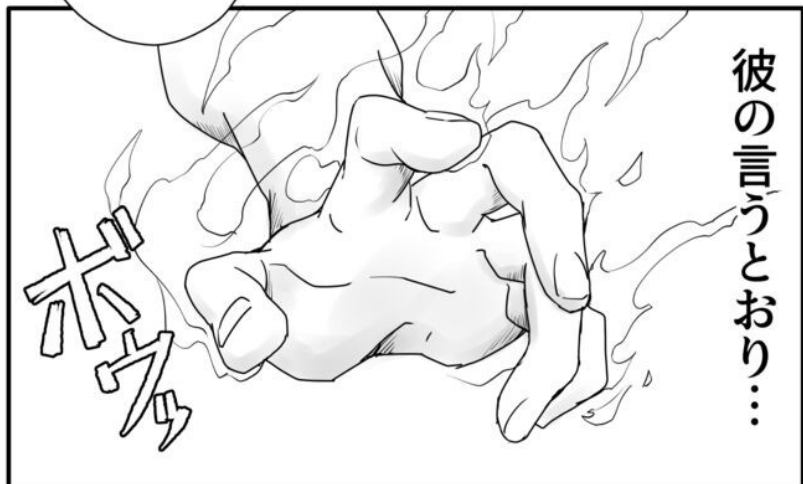
最後の
幸運だ…

愛しき種族の
引導ならば
悪くない…



さあ…
我が身に剣を
突き立てよ

彼の言うとおり…



ホウッ

彼はきつと哀れで



きつと悪いものなのだ



奥底から湧き上がる
情欲が...

剣の向かう先を
変えていた



ほんの出来心
だったんだ...



ほんの出来心
だったんだ...



ほんの出来心
だったんだ...



この私が
欲しいのか？

…少年



天から落ちた
この美しい存在を…

自分のものに出来たらと…



ではより強くなり、
我を守護する
剣となれ：

そうすれば…



我が愛は永遠に…

お前のものだ



そうだよ
カイン：



私は
お前のもの

お前だけの
ものだ：

「数年後」



我が名は
勇者アステロ!

至高神の
名にかけて、

ここで貴様を
倒す!

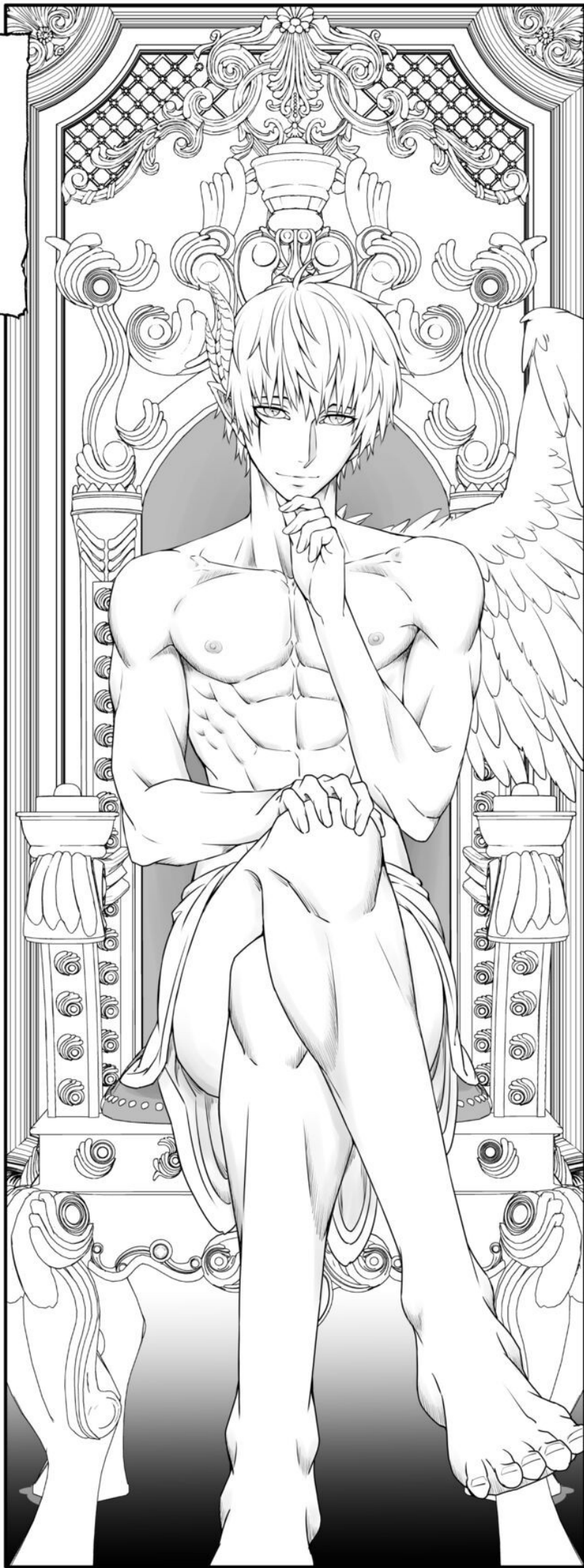


ヴァール年代記
第八章より



その寵愛を
壟断せんが為

聖なる武具を
暗黒に染める





我が剣の前に
果てるがいい…

斯くして
時代の英雄は
闇に落ち、

我が名は
闇の勇者カイン

魔王様に
齒向かう
愚者よ

その姿は常に
魔王の傍らに
あったという



END